

## 1月までのハイライト

- Quintadenストップの8フィート化
- 下鍵盤 Gedackt8フィートストップ パイプの反転
- ブロワボックスの修理
- Pedalチェストの修理

### ➤ Quintaden (4フィート) ストップの8フィート化

オルガンはストップという音色を奏者が選択する機構がついています（演奏台の横についているノブです）。これは音色を選ぶだけでなく、ピッチ（音の高さ）も違っており、それらを混ぜることで音色を決めます。8フィートと呼ばれるストップがオルガン演奏での基本のピッチ、4フィートであればその1オクターヴ上、16フィートであれば1オクターヴ下の音が鳴ります。

（フィートは長さの単位ですが、これは鍵盤一番下のドの音が鳴る開管パイプの長さがおおよそ8フィート（≒2.4m）になることに由来しています。）

橋本教会のオルガンでは、下鍵盤には8フィートのストップがありましたが、上鍵盤にはリード管というかなり特異な音が鳴る、また頻繁な調律を必要とする扱いずらいストップが8フィートとなっていました。このためオルガニストは演奏する鍵盤の位置を1オクターヴ下げて弾くという大きな制約を強いられていました。

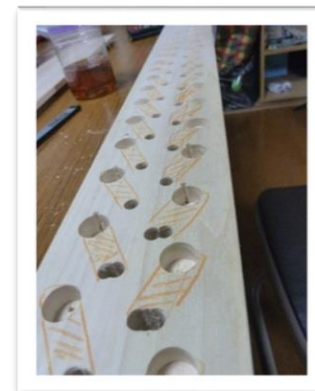
そこで今回はこの4フィートのストップを8フィートに変更する改造を行いました。これまで4フィートとして使っていたパイプ列を1オクターヴ分高音側にスライドし、最低オクターヴは下鍵盤の8フィートと共用としました。

この改造のため、パイプが立っているトーボードと呼ばれる部品を新しく製作し、さらに下鍵盤の8フィートとの共用を実現するトランスミッションという機構を製作しました。

前者はパイプを整然と並べて、さらにチェストからくる風をパイプまで導く導風路が彫られています。後者は下鍵盤・上鍵盤チェストから来たパイプを同じパイプに導けるようにするだけでなく、お互いの風が逆流しないよう、革の逆止弁が付けられています。



トーボードの設計



導風路の検討



導風路の加工



トップボードとの接着



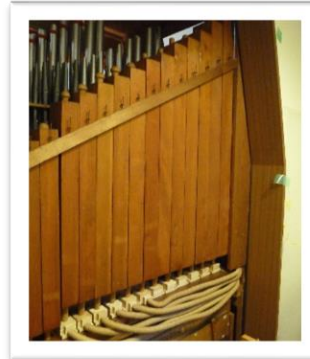
パイプを立てた状態



オルガン内に組み込み



トランスミッション・ボックスの製作



Gedackt8'の下に組み込み

### ➤ 下鍵盤 Gedackt8フィートストップ パイプの反転

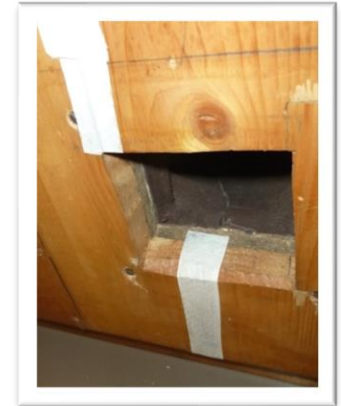
本オルガンの最も基本となるストップは下鍵盤の Gedackt 8フィートであり、木管が使われています。これらのパイプの下側オクターヴでは、歌口と呼ばれる音が発生する開口部が礼拝準備室内を向いていました。Gedacktは元々柔らかな音で輪郭線に乏しい音色ですが、この向きの影響も相まって、特に低音の音量が小さいという評価を得ていました。そこでこれらのパイプをオルガン内部 (= 会堂側) に向ける反転作業を実施しました。上の写真では既に反転されています。

### ➤ ブロワボックスの修理

本オルガンでは、随所に風漏れが見られていましたが、風を発生させるブロワを納めるボックスにも発見されました。木製ですが、経年等により大きなクラックが発生していました。これらを羊皮紙や革を使用して塞ぐ修理を実施しました。



クラックが見える



羊皮紙・革で修理

### ➤ Pedalチェストの修理

昨年5月に下鍵盤のチェストの風漏れ修理をしたことをご報告いたしました。同様の修理をPedalチェストについても実施しています。同時に、従来よりもさらに一定した風圧が得られるよう、導風経路の見直しも実施しています。



オリジナルの底板をベースに製作



革で気密し完成